

Title	古川栄一著 財務管理組織
Sub Title	
Author	和田, 松太郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.11 (1954. 11) ,p.1062(66)- 1063(67)
JaLC DOI	10.14991/001.19541101-0066
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19541101-0066

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古川榮一著『財務管理組織』

従来の財務論の研究に於いては、主として資本調達、資産構成等の問題が取扱われていた。これは一部に於いて「經營金論」と呼ばれることでも明瞭な如く、主として長期資本の調達を中心としていたのである。これに對して、本書に於いては、財務管理論の観点より企業に於ける資本運用を基礎にして、それに必要な資本調達を研究せんとする方法を指摘しているのである。而して、従来の經營財務論の研究のうち、財務管理論的の観点がいかなる形でその萌芽を現わし、いかに展開されたかを米、獨逸及び我國に於ける代表的財務論の研究を通じて分析しているのが、この點は非常に緻密に論述されている。

次に古川教授は財務管理を企業に於ける經營活動の性質に從つて、經營活動全般に渉る資本循環過程に對する廣義の財務管理と、現金の出納及び保管に對する狹義の財務管理との二種に區別して考察している。このうち、廣義財務管理に就いて検討しよう。これは、「各經營活動を統一化し、綜合化し、したがつてまた企業全體として收支の適合關係を維持し、かつこれを推進するための財務活動の有効な遂行に對する經營管理としての一形態」(八五頁)と述べているのであるが、財務管理が各經營活動を統一化し、綜合化するものであろうか。古川教授のいわゆる財務活動が各經營活動と關連を有していることは否定し得ない。然し乍ら、企業に於ける他の管理局面、例えば人事、生産、販賣等に就いても財務管理局面と同様のことがいえるのである。即ち、財務管理局面に對する「收支の適合關係の維持を」通じて各經營活動と關連する如く、例えば人事管理局面は「生産意思の保存」を通じて各經營活動と關連している

のである。これらの各管理局面はそれぞれの合理性原則を有して全經營活動と關連しているのであるが、それを統一化し、綜合化するのには財務管理ではなく、綜合管理としての統制管理局面であると考へる。斯る點より、財務管理が全經營活動を統一化し、綜合化するものであるとなすことには同意し得ない。

次に、經營計算制度の體系に就いて計算方法に依るもの(計算對象、計算區分、計算時點、計算形態、計算價值)の他に計算目的によるもの(財務報告的計算、財務管理的計算)を論じていることは本書の特徴である。各種の計算形態を明確に報告的計算と管理的計算に區分することは困難である。然し乍ら、管理的計算が漸次重視せられて來たことは一般に知られている如くである。報告計算制度より管理計算への展開を詳述し、前述の計算目的による體系を表示したことは高く評價されるべきである。

以上の如く、本書に於いては財務管理の本質とその對象たる財務活動の特性を述べ、管理用具としての經營計算制度を論じ、それを遂行するための實踐的組織としての財務管理組織に及んでいる。而して、書名のごとく財務管理組織にその重點がおかれている。

財務管理組織を述べるに際しては、先ずその前提たる經營管理論を展開し、特にトップ・マネジメントと部門管理組織に就いて詳述している。又、全般管理者を補佐する組織として成立したるコントローラ部門を重視する。而して、財務管理の擔當部門としては、廣義財務管理をスタッフ部門としてのコントローラ部門に、狹義財務管理をライン部門としての財務部門とすることを強調している。ここで注意すべきは「財務管理は企業における經營管理の一形態であつて、經營者によつて遂行されるものである。それは管理計算制度を用具として、企業における經營活動全般にわたつて行われるものであり、綜合的經

營管理の方法である」(二〇三頁)という點である。これは前述せる如き管理局面としての廣義財務管理の本質に關する問題であらう。

最後に「コントローラー制度の日本的適用」に就いて述べているが、この制度の導入に就いての困難性は一般に認められているに拘らず、その重要性が認識されているだけに重要な課題となつていのである。本書はこの點を重視して論じている。

(A五版、四七三頁、森山書店、昭和二十八年十月)

(和田木 松太郎)

國際決済銀行編『スターリング地域』 首藤 清譯

最近スターリング地域に關する論文・著書は實に多數にのぼつており、優れた資料的文獻のみならず好著も少からずあるが、本書はスターリング地域に對する概観を本文一七三頁(譯書)にまとめられたものとして、一般讀者に手頃のものである。

原書は一九五二年十月から五三年一月の間に書かれたものと記されてあるが、この度の續譯刊行に際し一九五三年の回顧と展望とが新しく追加された。いずれも國際決済銀行の年次報告にみる分析と同様の性格をもち、適宜な資料を配列して要領よくこの概観の任を果している。おそらく年次報告から適當にばつす整理をしてまとめられたものであらう。

第一章緒論ではスターリング地域の意味を述べ、國民所得・人口・外國貿易からこの經濟的重要性を説明して、「諸國の通貨が再び交換性をもつに至つても、スターリング地域の機構の本來の性格はあまり變化する要なし」とみ(九頁)、第二章ではこの成立の過程を回顧する。そこで特に強調される問題は、「何故スターリングが廣く用いられたか」ということである。これ

は本問題を研究する以上、いかなる場合でも一應はあきらかにされなければならぬものであるが、本書は英國の通貨、金融政策の貢獻、就中英蘭銀行の信用政策が「恐慌時の無制限信用供與、健全企業に對する融資の保證」という原則を守つたこと、金融・商品の自由市場を維持しつづけたこと、また地域内諸國の對内・對外的均衡保持のための金融政策の實施などをかかげ「通貨制度の成功を保證するものは、保有準備の大きさではなく、その時代を支配する思想、制度及び政策の全體合體の力である」と結ぶ。次で一九三一年以後の爲替管理時代に及び第三章・第四章において、今次大戰前後の貿易及び貿易外收入につき、前述したような年次報告的分析をもつてその推移を展望する。わずか六〇頁餘にすぎないが、簡潔な描寫によく本書の特徴を現している部分であらう。

しかし一九一三年から三九年、一九四六年から五二年の英國を中心とするスターリング各地域の國際收支の姿に對しては、本書は單なる描寫にとどめ、その問題點の究明には第五章以下の四章をあてている。即ち、第五章スターリング地域と物價變動においては、まず「英國とスターリング地域諸國との利害の一致」を説き、特に同地域の産物の價格に注目し、その變動が及ぼす悪循環を指摘した後、「もつと貿易が平常状態に戻り、ロンドンその他の地方で再び商品取引所が効果的働きを示すようになれば、必ずや諸物價の均衡がとれるようになるであらう」(九七頁)國際商品協定による價格安定策は「常にその交渉の行われる時期の事情を基礎にして作られるから、その後には續く生産消費状況の變化による新事態の要求に合致しないことが屢々起つてくる。實に、協定なるものは膨脹の必要な時にこれを抑制する作用を現わし、協定自身が不均衡の要因となるといつてよい」(一〇〇頁)また米國の原料に對する需要の變化に對應